

看護いばらき

+

No.122 2018年
10月25日

公益社団法人
茨城県看護協会
Ibaraki Nursing Association



☆トピックス☆

P11 キャリナース
「研修受講履歴」提供スタート

CONTENTS

- 2 地区意見交換会
- 3 慢性心不全看護（病態生理とセルフケア支援）
- 4 訪問看護専門分野研修（フィジカルアセスメント）
- 6 准看護師スキルアップ研修（キャリアデザイン進学情報）
- 7 地域包括ケア病棟の紹介（なめがた地域医療センター）
- 8 福祉用具の購入費用等の補助制度について
- 9 研修開催のお知らせ
- 10 訪問看護研修のご案内
- 11 新会員情報管理体制ナースシップ
- 12 第3回・第4回理事会報告

会員数

（平成30年10月1日現在）

合計 14,521人

保健師 337人

助産師 518人

看護師 12,620人

准看護師 1,046人

平成30年度地区意見交換会

8月30日の筑西・下妻地区を初日に10月31日まで全地区9ヵ所において、地区意見交換会が開催されました。意見交換会では、看護職の団体として、地域ごとに最適な地域医療のあり方を考えていく必要があることから、茨城県や医療関係団体等への要望活動へつなげていくことを目的に、地域医療における現状や課題等の情報共有の場の一つとして、活発な討論が行われました。

議題1 平成30年度事業方針・重点事業について

議題2 2019年度茨城県予算編成に係る要望について

議題3 意見交換

グループワーク テーマ「私の働き方改革」

①勤務体制の改善

- 人間関係での離職が多いため、60歳以上の定年を迎えた人を活用し、相談する場を設けたり、病児保育をしてもらう。
- 勤務の切り替わりの時間帯の忙しさに対応するために、遅番や残番をつけるなど対応していきたい。
- 看護補助者の活用（業務マニュアル・NSとペアを組む）
- NS・看護補助者毎に分けて目標を立て実施・評価
- 入院担当を設ける
- 夜勤専従NSの導入
- フレックスタイム導入
- リリーフ窓口があると依頼しやすい
- 業務分担（NSの仕事・介助者の仕事）
- 記録の改善、チェックリスト化

②メンタルヘルス対策

- 産業カウンセラーや心理士などのカウンセリング
- 定年後のNSに話を聴いてもらう

- 院内の産業医に見てもらう
- 臨床心理士がNSも対応
- 第三者の相談窓口（専門職）がほしい
- グリーンケアをしてほしい

③休暇取得促進

- 有給休暇取得に向けて、スタッフが希望しやすいように意識を変えていく。
- 有給休暇は人員不足で取得が難しいが、計画的にリフレッシュ休暇の取得していきたい。
- バースデイ休暇制度導入
- 1年間の中で計画的にリフレッシュ休暇7日間を取り入れていく
- 意識改革（もっと使いましょう・お互い様と考える・休みがあるから頑張れる）

④時間外労働の削減

- 事前申請で目標時間を設定することで時間内に終わらせるスタッフもでてきた。
- 勤務帯業務の区切りをハッキリさせることにより日勤の残業が減った。
- 看護師業務の役割の明確化（看護師でなくてもできる業務の洗い出し）

- ・他施設の方と問題点を抽出、意見交換し悩みを共有できました。実のあるグループワークでした。
- ・初めて参加しましたが、茨城県看護協会の事業方針、重点事業を聞くことができました。今後、自分自身の働き方を意識して行っていきたいと思いました。
- ・情報交換をすることで働き方の改善ができると感じました。
- ・看護協会の事業方針や事業内容の具体的な内容をもう少し聞ければよかった。
- ・資料が充実していて、とても有意義な時間を過ごすことができました。

取材担当：渡邊・木村・守屋・小川



【古河・坂東地区意見交換会】



【つくば地区意見交換会】

慢性心不全看護 ～病態生理とセルフケア支援～

日時：平成30年7月24日（火） 10時～16時

場所：鹿嶋市まちづくり市民センター

講師：龍ヶ崎済生会病院 慢性心不全看護認定看護師 浅野正巳先生

参加者：34名

今回の研修は、「慢性心不全患者の特性を理解し、看護の実際を学ぶ」をテーマに行われました。鹿嶋市での開催でしたが、県央や県南の病院から多数の参加がありました。講師の浅野正巳先生は、慢性心不全看護認定看護師として、病棟で勤務していることから、日頃の経験を踏まえ、実践に活かせる内容の研修でした。特にセルフモニタリングや健康行動の理論の活用では、患者の理解や指導方法について参加者が興味深く聞いていました。



<参加者の声>

1. 受講の動機

- ・心不全チームが立ち上がって1年が経過し、「心不全」についての知識を深め、指導に役立てたい。
- ・心不全の患者が多いため、自己学習以外でも学びたいと思った。
- ・知識の幅をひろげるため。
- ・急性期にかかわる病棟や救急外来で勤務していました。外来への異動に伴い、慢性疾患の患者との関わりが多くなったため受講しました。

2. 感想、今後どのように活かしますか。

- ・心不全患者の食事指導では、禁止するのではなく減塩する工夫を考えることが大切だと学んだ。内服指導では患者の生活スタイルを考え指導することで病状悪化防止に繋がっていきたい。
- ・心不全の病態、原因となる疾患など基礎知識の復習もでき、薬についても改めて学ぶことができた。また、心不全患者への指導についても詳しく学ぶことができたので、心不全を繰り返して入院している患者に対し、家族も含め指導していきたいと思う。
- ・これまで慢性疾患看護について知識や経験がほとんどありませんでした。外来での限られた時間のなかで、患者から情報収集し日常生活での注意点など、アドバイスしていけるよう日々自分も学んでいきたい。

取材担当：渡邊、岩瀬

訪問看護専門分野研修 (フィジカルアセスメント)

目 時：平成 30 年 9 月 12 日 (水)、13 日 (木) 10 時～16 時

場 所：茨城県看護研修センター

講 師：東京医科大学霞ヶ浦訪問看護ステーション

齋藤 尚代 先生

茨城県看護協会 土浦訪問看護ステーション

川並 和恵 先生

訪問看護ステーション愛美園

木下 真里 先生

村上 弘子 先生

JA とりで総合医療センター

竹之内 美樹 先生

筑波メディカルセンター病院

大久保 雅美 先生

総合病院土浦協同病院

井坂 尚美 先生

東京医科大学茨城医療センター

石川 景子 先生

石塚 かつ子 先生

参加者：35 名 (9 月 12 日)

33 名 (9 月 13 日)



<研修の概要>

今回の研修は、あらゆる健康の段階にある在宅療養者に関わる看護師が、フィジカルイグザミネーションを用いたアセスメント能力を向上させることを目的に 2 日間にわたり開催されました。訪問看護におけるフィジカルアセスメントの課題の一つにフィジカルイグザミネーションの技術 (スキル) 習得の機会が少ないこともあり、今回の研修でその部分を補うことができればという講師の思いもあり実施されました。

講義は、講師の実際の事例や経験に基づいた講話があり、実践に活かせる内容でした。フィジカルアセスメントに必要な技術として、「視診」「問診」「触診」「打診」「聴診」を二人一組で演習を行い、参加者がしっかりと技術が修得できるまで行っていました。また、各分野の認定看護師や特定行為研修修了者の方が指導にあたることで分かりやすく、一人ひとりが納得出来るまで相談でき、演習を行っていました。

グループワークは、事例を基に退院後の初回訪問時の観察のポイント、必要なフィジカルイグザミネーション、アセスメントのポイントについて話し合っていました。初回訪問という限られた時間のなかでどこを観察し、フィジカルアセスメントをするかポイントを絞るのが難しい様子でした。講師からのアドバイスで、納得でき研修を修了していました。



准看護師 スキルアップ研修 ーキャリアデザイン・進学情報ー

日 時：平成 30 年 8 月 24 日（金）10 時～16 時

場 所：茨城県看護研修センター

講 師：NPO 法人 日本交流分析協会

日本交流分析協会認定インストラクター 大野ユミ子先生

参加者：15 名

***** <研修内容> *****

今回の研修は、准看護師のキャリアデザインを支援することを目的に開催されました。茨城県内だけでなく、県外からも進学を考えている准看護師の参加がありました。

研修では、自分の思考、行動を分析するために、交流分析の哲学についての講義やエゴグラム、人生脚本を実際に行い、他の参加者と話す場面がありました。また、大野先生も自分の経験談を話しながら、会場を歩き、参加者の話を聞くなど、お互いの思考、行動を共有していることが印象的でした。交流分析の基本は、「変えることができるのは、“今、この自分”」であり、エゴグラムや人生脚本を考えることで、自分の今までの経験を振り返り、今後のキャリアデザインを考えられるような研修でした。



進学支援のために 2 年制、3 年制、通信制について、4 つの専門学校から説明がありました
茨城県立中央看護専門学校
水戸医師会看護専門学院
水戸看護福祉専門学校
マロニエ医療福祉専門学校

***** <参加者の声> *****

- ・研修では“自我状態”を調べ、自分を分析することで自分らしい、本来の自分を振り返ることができるということを学びました。今後のスキルアップに繋げていきたい。
- ・自分を振り返る方法を学んだので、これからも時々振り返り、自分がどんな状態であるかを理解し、より良い状態へと自分を変えていきたいと思えます。
- ・交流分析を通して自分を見つめ直すことができました。進学支援の説明を聞くことができ、自分のキャリアデザインを考えていきたいと思った。
- ・進学し学びたいという気持ちは以前より強く抱いていましたが、国試という大きな壁を突破できるかという不安をかなり感じていました。4 校の説明を聞き、自分のライフ設計にあったスタイルで学べることを知り、改めて進学の準備を進めたいと感じた。

取材者：渡邊、木村

地域包括ケア病棟の紹介

土浦協同病院 なめがた地域医療センター

茨城県行方市井上藤井 98 番地 8

☎ 0299-56-0600 (代)

地域包括ケア病棟

看護師長 高野 祐子



当院がある行方市は高齢化率が 34.1%と全国比より高く、高齢夫婦のみの世帯や高齢者独居、家族と同居していても日中独居の高齢者などが多く居住している地域です。そのため、地域の医療ニーズをふまえて平成 29 年 11 月に地域包括ケア病床 10 床を開設、平成 30 年 3 月には 49 床の地域包括ケア病棟として開設となりました。当院としては、急性期病棟・回復期リハビリテーション病棟の病棟機能に加え、今回病棟転換したことでさらに複数機能を持ったケアミックス病院となりました。



当病棟は、急性期病棟での治療が終了した後、退院環境調整にもう少し時間を要する患者さんを転棟・転院という形で受け入れたり（ポストアキュート）、在宅や介護施設などの地域からの緊急時の受け入れ（サブアキュート）、をおこなっています。急性期からの転棟を決定する「患者選定カンファレンス」から「退院に向けてのカンファレンス」まで、社会福祉士・事務・リハビリ担当者と密にカンファレンスを開催し他職種連携を強化することで 60 日以内での退院を目指しています。また、上記以外の予定入院として眼科の白内障や外科の鼠

径ヘルニアなどの手術患者さんも受け入れ、その他の機能としての病棟の役割もおこなっています。

在宅での暮らしを支える機能としてのサブアキュートの機能の充実を目指し、地域との連携強化をしていく取り組みとして、当院で行方市のケアマネージャー会議及び研修、在宅支援・介護推進合同会議などを開催し、院内で関わる他職種も参加し顔の見える関係づくりに努めています。研修においてケアマネージャーの方々とのグループワークを通して情報共有に努めたり、様々な意見をいただいたりすることで今後の活動の糸口が見いだせています。具体的には、グループワークの中でレスパイト入院に関する要望があり、試行錯誤しながら早急に体制を整え、受け入れへと繋げることができました。その後、改めてレスパイト入院の受け入れ体制について検討し、基準を設けて本格的に受け入れる体制が整ったところです。今後もこのように地域多職種からの声に耳を傾けることで地域の医療ニーズに伝えていきたいと考えています。

患者さんやご家族は退院に対してさまざまな問題や不安を抱えています。そのため、その気持ちに寄り添い、院内他職種連携のもと身体機能・生活機能の向上を目標に掲げ、住み慣れた地域でその人らしく、安心した生活ができるよう支援をしていく必要があります。今後、病棟として退院後の電話訪問や退院前訪問、病院としては訪問看護に向けての準備を進めています。地域に根ざした病院として地域医療を支え、信頼される病院・病棟となるように、地域多職種と協働した地域包括ケアシステムの構築につとめていきたいと思ひます。

若年者向け

福祉用具の購入費用等の補助制度について

～平成30年度いばらきがん患者トータルサポート事業
(若年患者療養生活サポート事業補助金)～

本事業は茨城県の委託を受けて実施しています。



前回の号では、茨城県でがん治療を受けている方への社会参加サポート事業（ウィッグ・乳房補整具購入補助）についてお知らせしました。実は県ではもう一つの事業として若年者（20～39歳）の療養生活サポート事業を行っています。「通院するのに車いすが必要だ。」「退院時に自宅で療養するのに使用したい。」などの症例に是非ご利用ください。病院や訪問看護に携わっている方に思い当たる事例があればお問い合わせください。

制度の概要

☆補助の対象となる方は、次の項目の両方に該当する方です。

- (1) 申請日時点において茨城県内に住所を有する20歳以上39歳以下の方。
- (2) がんの治療を受けた者又は現に受けている者であって、補助の対象となる経費に掲げる福祉用具を必要とし、購入又は貸与を受ける方。（補助対象者本人又は3親等以内の親族に限ります。）

☆対介護保険の対象となる以下の福祉用具（平成30年4月1日から平成31年3月31日の間に購入したものは貸与を受けたものが対象です。また、同一補助具について、県内市町村が実施する同種の助成を受けている場合は、対象経費からその金額を差し引いた額が補助対象経費となります。）

車いす	歩行器
車いす付属品	歩行補助つえ
特殊寝台	移動用リフト
特殊寝台付属品	腰掛便座
床ずれ防止用具	特殊尿器
体位変換器	入浴補助用具
手すり	簡易浴槽
スロープ	移動用リフトのつり具の部分

☆補助率・補助額、補助回数、申請方法、申請に必要な書類は社会参加サポート事業と同様です
(申請者が、補助対象がん患者の三親等以内の親族である場合はそれを証する書類が必要になります)



詳細はいばらき みんなのがん相談室までお問い合わせください。
電話 029-222-1219

研修開催のお知らせ

● 研修 No.45 「医療安全管理者養成研修 フォローアップ講座」

日時：平成 30 年 11 月 30 日（金）10：00～16：00

場所：茨城県看護協会看護研修センター

講師：鶴見 眞理子（自治医科大学附属病院）

参加条件：・医療安全管理者養成研修修了者
・医療安全管理者の任にあたる方

受講料：会員 2,000 円 非会員 4,000 円

応募期間：受付中

● 研修 No.54 「HUG 避難所運営ゲーム体験会」（災害に関する研修会）

日時：平成 31 年 1 月 25 日（金）13：30～15：30

場所：茨城県看護協会看護研修センター

講師：羽鳥 公寿（レイクエコー 茨城県鹿行生涯学習センター・茨城県女性プラザ）

参加条件：保健師または、保健師活動に関心のある看護職

受講料：会員 2,000 円 非会員 4,000 円

応募期間：H30 年 12 月 3 日（月）申込受付開始

● 研修 No.60 「医療安全管理者交流会」

日時：平成 30 年 11 月 10 日（土）10：00～16：00

場所：茨城県看護協会看護研修センター

講師：高谷 智子（茨城西南医療センター病院）

参加条件：自施設の医療安全管理者の任にあたる方

受講料：会員 2,000 円 非会員 4,000 円

応募期間：受付中

● 研修 No.61 「医療安全担当者研修会」

日時：平成 31 年 1 月 26 日（土）10：00～16：00

場所：茨城県看護協会看護研修センター

講師：上野 寛明（損害保険ジャパン日本興亜株式会社）

参加条件：医療安全に関心のある看護職

受講料：会員 2,000 円 非会員 4,000 円

応募期間：H30 年 12 月 5 日（水）申込受付開始

■ お申込み・お支払い

HP より申請書＜様式 1＞・＜様式 2＞をダウンロードのうえ、協会宛に FAX または
ご郵送ください。受講料のお支払い方法は HP をご覧ください。

F A X : 029-226-0493 茨城県看護協会 HP URL : <https://www.ina.or.jp>

訪問看護研修のご案内

【訪問看護入門プログラム】

受講料無料

- 訪問看護未経験でも「自分も訪問看護ができそうだ」「やってみよう」という気持ちになれる。
- 訪問看護に関心のある看護師等が、訪問看護に必要な初歩的知識と技術を理解する。

研修日：平成30年12月8日（土）・12月9日（日） 2日間

時間：10：00～16：00

場所：茨城県看護協会 看護研修センター

対象者：訪問看護に興味・関心のある看護学生、看護職等

講師：訪問看護認定看護師6名

内容：12月8日（土） 訪問看護活動の初歩的な知識
訪問看護活動の実際
講義、DVDの鑑賞
12月9日（日） 訪問看護の実際と必要な基礎技術
訪問看護に関する質問・相談

※詳細は茨城県看護協会ホームページ、又は、地域包括ケア推進に関する研修会案内冊子をご覧ください。

申込方法：申込書を茨城県看護協会ホームページよりダウンロード、又は、地域包括ケア推進に関する研修会案内冊子の申込書に必要事項を記入のうえ、茨城県看護協会までFAXまたは郵送にて申し込みください。

施設申込：訪問看護支援事業研修推薦書 <様式13>

訪問看護支援事業研修申込書 <様式14>

個人申込：訪問看護支援事業研修申込書 <様式14>

申込締切：平成30年11月15日（木）必着

平成30年

11月～

新会員情報管理体制 ナースシッパ

2019年度 会員手続きが開始します!

新会員情報管理体制ナースシッパの運用に伴い、会員継続手続きが不要となり自動継続となります。

◆平成30年度会員様(会費納入済)には、平成30年11月以降、日本看護協会から【2019年度会費のお知らせ】が届きます。記載内容をご確認のうえ、変更がない場合は提出不要。自動継続となります。

(施設会員の方⇒施設にまとめて送付。 個人会員の方⇒ご自宅に送付。)



2019年度の継続を希望しない場合は、【退会の連絡】が必要となります。

口座振替を選択している場合、平成31年1月から次年度の年会費が引き落とされますので、平成30年内に【退会の連絡】をお願いします。継続が未定の場合は、年会費納入を【保留】にすることもできます。

各お問い合わせは、茨城県看護協会までご相談ください。(☎ 029-221-6900)

<p>入会の方</p> <p>2019年度用申請用紙(ピンク)で会員登録事務局に送付</p>	<p>転職などで勤務先の変更があったら…</p> <p>施設番号が変わりますので、新しい施設番号を確認・記入して送付</p>	<p>県移動の方</p> <p>県番号を08 茨城県と記入して送付してください</p>	<p>キャリアースでも</p> <p>日本看護協会会員用アプリでも、入会や会員情報の変更ができます。</p>
---	--	--	---

会員の皆さま専用WEBページ

キャリアース

ぜひ活用ください

『研修受講履歴』

2018年6月より提供スタート



キャリアースは、**経験**を積んで**キャリアアップ**したい**看護職**の皆さまを**応援**します!

日本看護協会では、会員の皆さまのキャリア構築を支援する会員専用WEBページ **キャリアース** を提供しています (URL▶<https://kaiin.nurse.or.jp/members/JNG000101>)。

キャリアースでは2018年6月中旬から、都道府県看護協会や日本看護協会を受講した研修の履歴が確認できるようになります。これにより研修修了証の保存が不要になります。資格取得や更新申請、施設への提出などが必要となるときに、研修受講履歴証明書や一覧表の印刷もできるようになります。

個人会員の施設番号は、登録の職種によります。

保健師：2000 助産師：3000 看護師・准看護師：4000 です。

会員様専用 WEB ページ **キャリアース** ご活用ください

平成30年度 理事会報告

■第3回理事会
平成30年8月22日(水)

■協議内容

- 1 平成30年度第1・四半期事業報告(4～6月)について(案) 承認
- 2 平成30年度地区意見交換会について(案) 承認

■報告事項

- 1 平成30年度日本看護協会第3回理事会報告
- 2 日本看護協会平成29年度全国職能委員長会報告
- 3 准看護師制度担当役員会議
- 4 都道府県看護協会教育担当者会議報告
- 5 2019年度予算編成に向けた各関係機関等への要望、提案事項について
- 6 創立70周年記念式典・祝賀会について
- 7 いきいき茨城ゆめ国体2019及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会への協力について
- 8 平成30年度茨城県・鹿嶋市総合防災訓練について
- 9 予算執行状況(4～6月)について
- 10 平成30年7月豪雨に係る災害義援金について
- 11 役員賠償責任保険の継続契約について
- 12 平成29年度公益社団法人に係る定期提出書類について

■第4回書面理事会

■報告事項

- 1 平成30年度日本看護協会第4回理事会報告
- 2 2019年度予算編成に向けた茨城県への要望、提案事項について
- 3 創立70周年記念式典・祝賀会について
- 4 いきいき茨城ゆめ国体2019及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会への協力について
- 5 平成30年度都道府県看護協会災害看護担当者会議報告
- 6 平成30年度都道府県看護協会政策責任者会議報告
- 7 平成30年度医療安全推進会議報告



新企画

『仕事をしていて、ここに残った一言』
その一言があったから、今、頑張っている。
その一言で、看護観が変わった。
その一言で、救われた。

今まで行ってきた看護の場面で、患者さま、ご家族、他の医療従事者などからもらった、心に残った言葉・体験を募集しています。

投稿いただいたものを「看護いばらき」で紹介させていただきます。

応募要項

対象は、茨城県内で就業している看護職の方です。
氏名、看護師歴、施設名を記載してください。
(匿名での掲載も可能です)

原稿は、200文字以内でお願いします。

郵送先 310-0034
茨城県水戸市緑町 3-5-35
茨城県看護協会 広報委員会 宛

メール先 ibakango@olive.ocn.ne.jp

たくさんのご応募、お待ちしております。

編集後記

干しいもは、サツマイモを蒸して乾燥させた食品です。日本においては全国各地でつくられています。産業としては8割以上が茨城県で生産されています。正式名は「甘藷蒸切干(かんしょむしぎりぼし)」だが、「乾燥芋」「きっぱし」「いもかち」などと呼ばれています。

甘いお芋を食べて、体調を崩さず、寒い冬を乗り切りましょう。

広報委員会一同